

那覇市在宅医療・介護連携推進事業 在宅医療同行訪問研修報告

氏名：當間 弘和（地域連携部 部長／有料老人ホーム 入居相談員）

所属施設：株式会社リンクス・有料老人ホーム メディケアハウス寄宮

分野	訪問診療
実施日時	令和5年6月28日（水） 13時15分～16時30分
研修先	きなクリニック 喜納 医師
実施報告	<ul style="list-style-type: none">・訪問診療に同行させて頂いた3カ所、どの患者様も診察は5分程度で、残りのほとんどの時間を患者様や施設の職員さんとお話する時間にしているのが一番の驚きでした。・事前にクリニックへ連絡していた患者様の情報を確認しながら診察をしていくので、紙媒体の資料は見やすくしていた方が良いと感じたので、当施設で活かしていきたいです。・診察で使う医療物品はその都度で違うが、持っていくカバンやリュックなどの荷物は多いので、タイヤ付きの棚などに置いて運べるようにできたら、カバンやリュックなどの上げ下ろしの負担は減ると思いました。・2施設担当している看護師さんより、お二人それぞれ、喜納先生へお話ししたい事・聞いてほしい事・プライベートな相談事をお話しているのをお聞きしました。時に、冗談を交えながらお話していたり、やり取りしているのを拝見して、『みんなの喜納先生』なんだ。という印象を受けました。・（良い意味で）2施設の担当看護師さんより、「喜納先生が医師だから…」、「お声かけて良いのかな」、「こんな事を聞いて大丈夫なのかな」など、話しかけにくいという雰囲気は感じられませんでした。・（私が言うのは失礼な表現かもしれませんが）話しかけやすい事や冗談も言える関係性というのは、診察などのやり取りがスムーズにできているように見えました。・医師だから施設の担当者からは「話しかけにくい」、「聞きたい事が聞けない」、「敬語になりすぎてしまったり、億劫になってうまく伝えられない」等があると患者様に不利益になってしまう恐れがあるので、和気あいあいとしているのは事前に想像していた雰囲気とは全く違いました。
研修を終えて	<ul style="list-style-type: none">・3カ所とも、喜納先生が来るのを皆さん心待ちにしていると感じました。訪問診療が患者様だけではなく、支援者の支えになっている場面は感動しました。『みんなの喜納先生』なんだと思いました。 <p>今回の訪問診療への同行は代えがたい経験になりました。一生の宝にさせていただきます。</p>